TOSHIBA
Leading Innovation

プチパネリア® プチパネリアプラス™ 住宅用分電盤 施工説明書

・この説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
・有資格者以外の方の電気工事は、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。

安全に関するご注意

⚠警告

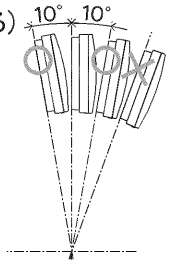
・施工時、点検時には必ず主電源を切ってください。
電源が入ったままの施工、点検は感電・短絡の原因となります。

⚠注意

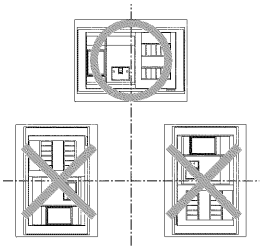
・主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続してください。
相を間違うと異常電圧が発生し、発熱・発火の原因となります。
・主幹ブレーカ(単３中性線欠相保護付)の過電圧リード線は、必ず中性バーに接続してください。
取外すと単３中性線欠相検出による過電圧保護ができません。(単相２線式機種除く)
・分岐ブレーカの電源側プラグイン端子はバーへ確実に差し込んでください。
差し込みが不十分な場合、発熱・発火の原因となります。
・分岐ブレーカの負荷側速結端子への接続は、電線をストリップゲージに合わせてむき、奥まで確実に差し込んでください。
差し込みが不十分な場合、発熱・発火の原因となります。
・分岐ブレーカの負荷側速結端子への接続電線は、変形・腐食のないものを使用してください。
変形・腐食した電線を接続すると、発熱・発火の原因となります。
・端子ねじは推奨締付けトルクで締付けてください。
端子ねじの緩みは、発熱・発火の原因となります。

■設置・施工に関するご注意

・住宅用分電盤は、容易に操作・点検できる場所に取付けてください。
戸棚・便所・浴室などの内部には取付けないでください。
・高温・多湿・じんあい・腐食性ガス・振動・衝撃など、異常な環境での使用は避けてください。機能を損ないます。
・屋内で使用してください。屋外や水のかかる場所には使用できません。
・住宅用分電盤を取付ける壁面は、平らな面を選び、適切なねじ締め力で取付けてください。凸凹のある場所へ無理に取付けたり、ねじ締付け力が強すぎると、ベースがひずみ、正常な取付けが維持できません。
・住宅用分電盤の前面には、障害になるようなものを置かないでください。
・住宅用分電盤を照明器具(ダウンライトなど)の近くに設置する場合は、使用されるダウンライトの直下近接限度以上離してください。
・住宅用分電盤は、相線式・回路電圧に合わせて選んでください。
・単相３線式の中性線を中極に、電圧線(200V)を両端に接続してください。
単相２線回路には単相３線式機種は使用できません。
・盤定格電流を超える主幹ブレーカは取付けないでください。
・電線サイズは最大想定負荷電流に適合したものを使用してください。
主幹ブレーカ・分岐ブレーカに接続する電線は右表より選んでください。
・速結端子には、１つの挿入口に電線２本以上を接続しないでください。
・圧着端子・圧着工具はＪＩＳ適合品を使用してください。また、電線に適合した圧着端子を使用してください。
・主幹ブレーカ２次側端子、接続部、及び付属機器取付けスペースからの分岐配線・仮配線は行わないでください。
・施工完了後、ブレーカに端子カバーを確実に取付けてください。
・分電盤カバーなどは、取付け施工後、軽く引いて外れないことを確認してください。
・施工後及び点検時にはブレーカなどの導電部締付けねじ部の増締めを行い、ゆるみがないことをご確認ください。



(この図は横形取付け機種に適用する)



側面から見た場合　正面から見た場合

導電部の接続ねじ推奨締付けトルク

ねじの呼び径	締付けトルクN・m
M4	1.2～1.6
M5	1.6～2.0
M6	3.0～4.0
M8	5.5～7.0

備考:機器端子Ｍ５圧着方式の場合は
2.0～2.5N・m

主幹・分岐ブレーカ適合電線サイズ

ブレーカの定格電流		電線サイズ
分岐	15A	φ1.6・φ2.0
	20A	φ1.6・φ2.0
	30A	φ2.6
主幹	30A	φ2.6, 5.5～8.0mm²
	40A	8.0～14.0mm²
	50A・60A	14.0～22.0mm²
	75A	22.0～38.0mm²
	100A	38.0mm²

圧着端子はつぎのものを使用してください。

ねじの寸法	電線サイズ(mm²)					推奨締付けトルク
	5.5	8	14	22	38	(N・m)
M5	5.5-5	8-5	14-5	22-5	-	1.6～2.0
M6	5.5-6	8-6	14-6	22-S6	-	3.0～4.0
M8	5.5-8	8-8	14-8	22-8	38-S8	5.5～7.0

安全に関するご注意

分岐ブレーカ編

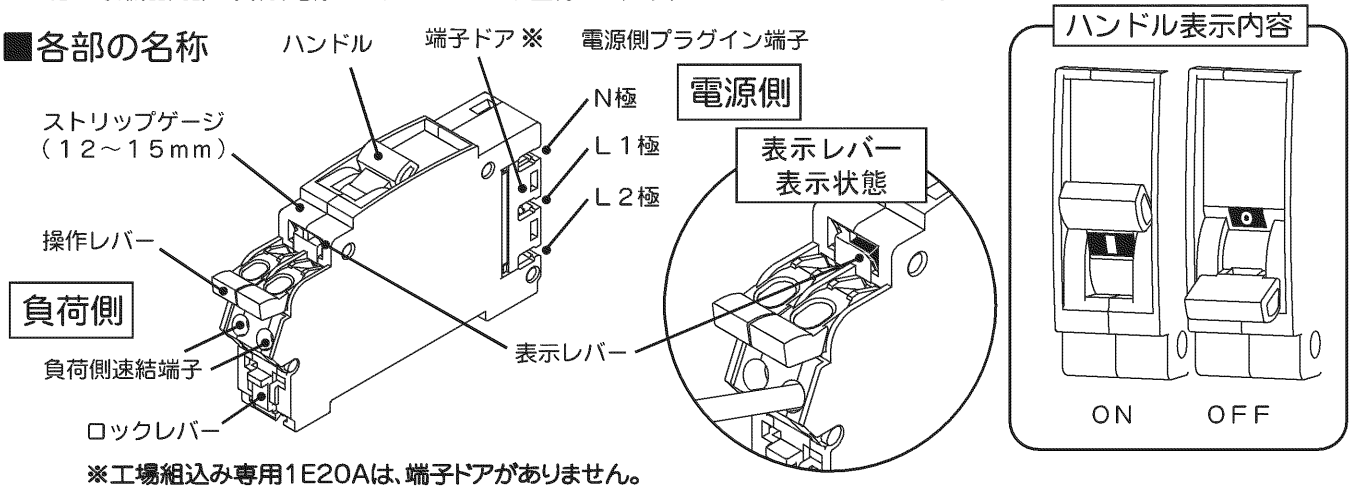
⚠注意

・本プラグイン分岐ブレーカは、東芝住宅用分電盤プチパネリア分岐取付け専用です。
当社製他シリーズ分電盤、他社製分電盤には取付けできません。無理に取付けると、火災の恐れがあります。
・分岐ブレーカの電源側プラグイン端子はバーへ確実に差し込んでください。
差し込みが不十分な場合、発熱・発火の原因となります。
・分岐ブレーカの負荷側速結端子への接続は、電線をストリップゲージに合わせてむき、奥まで確実に差し込んでください。
差し込みが不十分な場合、発熱・発火の原因となります。
・分岐ブレーカの負荷側速結端子への接続電線は、変形・汚れ・腐食のないものを使用してください。
変形・腐食した電線を接続すると、発熱・発火の原因となります。
また、一度接続した電線を再接続する場合も、電線をむき直してから接続してください。
・１つの速結端子に２本以上の電線を差し込まないでください。
・配線作業は上位遮断器をＯＦＦにし、電気がきてないことを確認してから行ってください。
感電の原因となります。
・１００Ｖ回路の場合、負荷側端子への電線接続は、極を確認して正しく接続してください。

■施工上のご注意

・温度・湿度・粉塵・腐食性ガス・振動・衝撃・直射日光など、異常な周囲環境での使用は避けてください。
・連続負荷を有する分岐回路の場合、ブレーカに通電する負荷電流は定格電流の80%以下としてください。
・本プラグイン分岐ブレーカは、コード短絡保護瞬時付です。7.5倍を超える瞬時突入電流がある負荷には使用できません。
・施工時、機器内部に異物(電線クズやコンクリート壁材など)が入らないようにしてください。

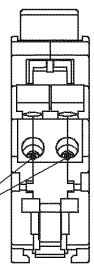
■各部の名称



※工場組込み専用1E20Aは、端子ドアがありません。

■分岐ブレーカ負荷側速結端子への電線接続について

1 分岐ブレーカ本体のストリップゲージに電線を合わせ、被覆を１２～１５mmのあいだでむいてください。
2 分岐ブレーカ本体負荷側操作レバーを起こして電線挿入口に電線を奥まで差し込みます。
※電線の挿入が不十分な場合、発熱・発火の原因となります。
3 電線が奥まで差し込まれていれば緑色の表示レバーが出ます。
操作レバーを倒してロックしてください。
ロック後電線を軽く引いて抜けないことを確認してください。
4 電線を抜く場合は、操作レバーを起こして電線を引き抜いてください。



1つの電線挿入口に2本以上の電線を差し込まないでください。

操作レバーの押込み荷重が高すぎる（50N以上）と破損にいたります。

●接続電線:Cu(銅)単線専用

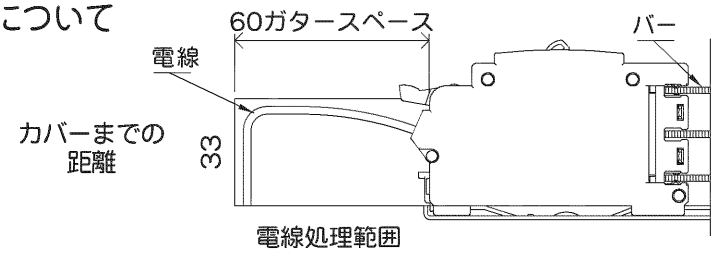
定格電流　15A・20A:φ1.6・φ2.0・φ2.6
定格電流　30A:φ2.0・φ2.6(φ1.6は使用不可)
※より線の場合は棒状圧着端子使用

より線サイズ	適合棒状圧着端子品番
1.25mm²・2.0mm²	TC2-20（棒状圧着端子） VC1-2（絶縁キャップ） ※ニチフ製
3.5mm²・5.5mm²	TC5.5-15ST （絶縁キャップ付棒状圧着端子） ※ニチフ製

電線の押込み荷重が高すぎる（100N以上）と破損にいたります。

■分岐ブレーカ負荷側接続電線の処理範囲について

・接続電線は電線処理範囲内で配線してください。
電線処理範囲外に電線が出ますとカバーが取付きません。
また、電線被覆を傷つけ、感電・短絡の原因となります。



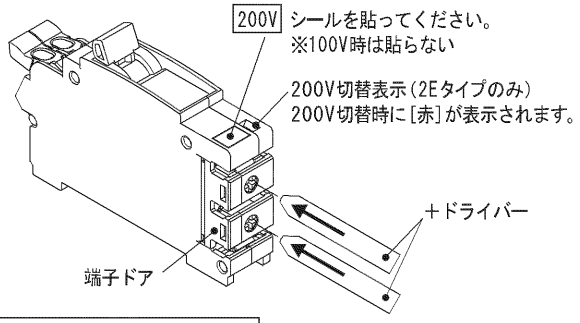
■電源側　相・電圧切替方法について

・プラグイン端子の位置を確認してください。
・負荷の使用電圧・相に合わせ、プラグイン選択端子の位置を切替えてください。
・分岐ブレーカ本体電源側端子ドアを開けてプラグイン選択端子を切替えてください。端子ドアが閉じたままではプラグイン選択端子切替えができません。
・プラグイン選択端子の切替えは＋ドライバーで行ってください。切替えが不完全な場合、バーへの差し込みができません。また、無理に取付けると選択端子が破損し、発熱・発火の原因となります。
・プラグイン選択端子の切替え終了後は必ず端子ドアを閉めてください。

住宅用分電盤に取付けた状態では切替えできません。

工場組込み専用1E20Aは、切替えできません。

単品販売の1Eタイプは、N極固定です。
相の切替えのみ可能です。（100V専用）

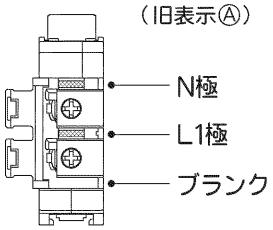


端子ドアの開閉荷重が高すぎる（10N以上）と破損にいたります。

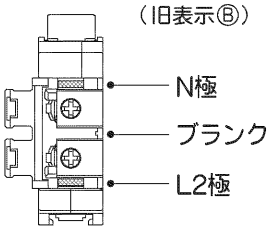
端子ドアの開閉角度が大きすぎる（90°以上）と破損にいたります。

2EタイプはL1極にプラグイン選択端子が無いことを確認して他極のプラグイン選択端子の位置を切替えてください。
プラグイン選択端子がある極に他極のプラグイン選択端子を切替えると破損にいたります。

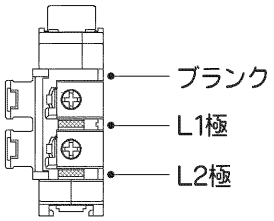
L1-N　100V　•



L2-N　100V　• •

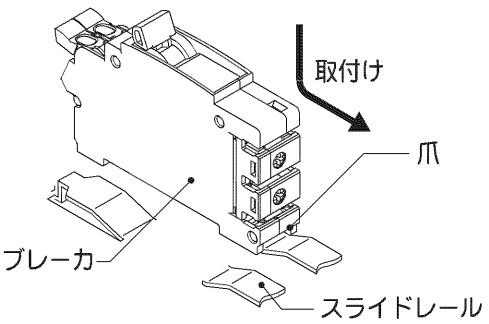


L1-L2　200V



■分岐ブレーカの取付け・取外し方法について

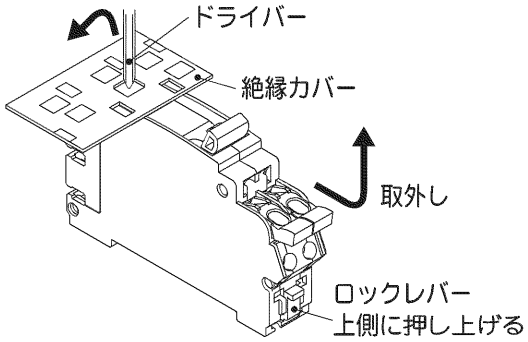
【取付け】



・ロックレバーを上側に押し上げてください。
・ブレーカ底部の爪を電源側・負荷側共にスライドレールに係合させてください。
・ブレーカを水平に奥まで差込み、バーに確実に取付いていることを確認し、ロックレバーを下げてください。

ロックレバーが下がったままブレーカを差込むと、ブレーカが破損する恐れがあります。

【取外し】



・ロックレバーを上側に押し上げてください。
・ドライバーを絶縁カバー天面四角穴（大）に差込み、ブレーカを負荷側方向に押し出してください。（横一列タイプを除く）
・手でさらに負荷側へ水平に引き、取外してください。

■主幹ブレーカ・連系ブレーカの補修について

・プチパネリア、プチパネリアプラスのBシリーズ（例:形名 TFYC○○○○B-○）に搭載の主幹ブレーカ、及び連系ブレーカの補修には、プチパネリア、プチパネリアプラス搭載用ブレーカをお選びください。

■使用上のご注意

・線間の絶縁抵抗測定は漏電ブレーカが故障します。
・線間電圧による感電は、漏電ブレーカで保護できません。
・電路と大地間の絶縁抵抗測定の際は、単３中性線欠相保護付主幹ブレーカの場合、中性バーから過電圧検出リード線を取外して測定してください。測定後は必ず中性バーに過電圧検出リード線を接続してください。
中性線欠相保護検出による過電圧保護ができません。
・漏電ブレーカ付の商品は、工事完了後、ハンドルをON「｜」にしてからテストボタンを押して、動作の確認をしてください。
・不要動作などを防ぐため、商品に表示してある定格電流の８０％以内でのご使用をお奨めします。

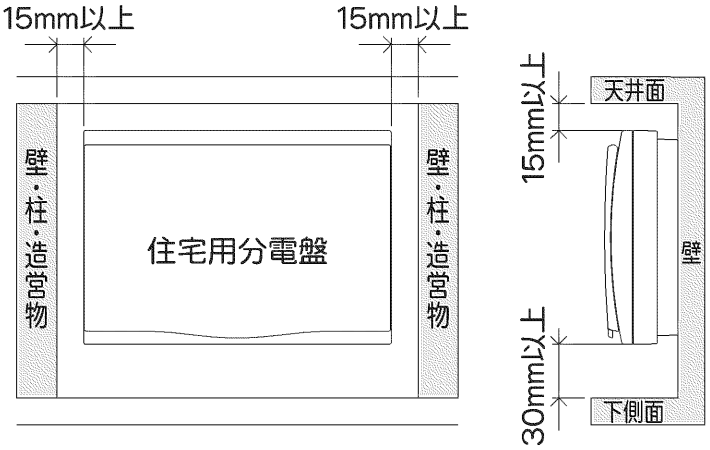
■清掃について

・住宅用分電盤の清掃は乾布で行ってください。
・シンナー・ベンジンなどの薬品、油、酸性・中性・アルカリ性洗剤を住宅用分電盤に付けないでください。
樹脂が変色・劣化・破損する恐れがあります。
・住宅用分電盤内部の清掃は、絶対に行わないでください。
感電の原因となります。

■住宅用分電盤取付け方法及びご注意

（この図は横形取付け機種に適用する）

・本体の取付けは、天井面・両側面から15mm以上、下側面から30mm以上の間隔（隙間）を設けてください（右図）。



◆露出取付け◆
・裏面配線時はベース（＝ボックス）の配線孔に合わせて壁に穴を開けてください。(*1)

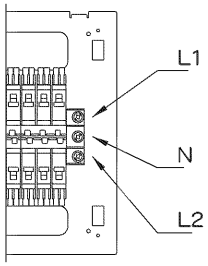
◆半埋込取付け◆
・壁に半埋込用の穴を開けてください。
ベース底面に合わせて穴を開けないでください。
ベース底面寸法と半埋込穴寸法は異なり、ベースを壁に埋込めません。
壁穴開け寸法は、タテ・ヨコともに、本体外形寸法マイナス16mm以上、26mm未満を目安としてください。

◆配線工事方法◆
・半埋込取付け時などで、主幹用ケーブルなど太いケーブルを上側面より盤内に引込む場合は、引込みを容易にするため、外装被覆をむいて電線部のみ入線してください。
・下列の分岐ブレーカへの電線接続は、分岐ブレーカ裏面配線スペースを通して施工することができます。
・内部機器は一括して取外すことができます。（木板は取外しできません）

■送り端子への電線接続

・送り端子（Ｍ６）への電線接続は、適合圧着端子を使用してください。(*2)
・端子ねじは推奨締付けトルクで確実に接続してください。
推奨締付けトルク 3.0～4.0N･m
・電線接続後は絶縁保護カバーを確実に取付けてください。

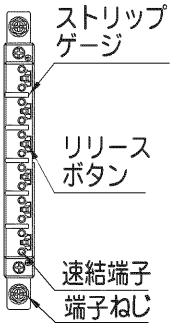
送り端子（Ｍ６）



＊1 横一列タイプは、露出取付け専用タイプです。
＊2 横一列タイプは、送り端子がありません。

■アース中継端子への電線接続

・速結端子への接続は、電線をストリップゲージに合わせて12mmむき、奥まで確実に差し込んで抜けないことを確認してください。接続電線は、
φ1.6･2.0 Cu（銅）単線専用です。
・電線を抜く場合は、リリースボタンをドライバーで押しながら電線を抜いてください。
・端子ねじ（M5）へ電線接続する場合の接続電線は最大5.5㎟です。
圧着端子を使用してください。
推奨締付けトルク 1.6～2.0 N･m
・アース線専用です。電源線の中継（送り）には使用できません。



お願い

・工事が終わったら、商品に同梱してある取扱説明書に、施工電気工事業者名（指定がある場合は連絡先）をご記入後、お客様に取扱方法を説明し、お渡しください。

東芝ライテック株式会社　住空間システム部　住宅機器商品担当
〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34
TEL (044)331-7555　　FAX (044)548-9604

(06224) I